

横河電機株式会社

# 構造改革の進捗状況と 2011年度の事業ポートフォリオ



2011年2月9日

代表取締役社長 海堀 周造



YOKOGAWA



# FY10 3Q 経営成績

## 第3四半期決算

円高による減益の影響はあったものの、前年同期を大きく上回る実績

(億円)

	FY09 3Q	FY10 3Q	FY09 1Q-3Q	FY10 1Q-3Q
受注高	726	784	2,274	2,481
売上高	685	752	2,192	2,286
営業利益	▲4	8	▲27	48
経常利益	▲11	▲1	▲52	18
四半期純利益	▲37	▲13	▲182	▲48



# 事業の状況と業績見通し

**経済状況:** 世界／新興国の継続的な成長を受け、総じて堅調に推移  
 日本／回復傾向を見せながらも、先行き不透明感を払拭しきれない状況が継続

**制御事業:** 海外／電力・エネルギープラント等の建設プロジェクトなどで需要拡大の動きが継続  
 日本／紙パルプ・鉄鋼・電力関連分野を中心に需要が回復傾向

**計測機器事業:** テスタ／主力のメモリ前工程向けテスタの市場では、顧客の投資の動きは見えず  
 測定器／省エネルギー・新エネルギー、光通信関連市場で電力・光測定器の需要増

(億円)

	FY10 計画 10/11/9	FY10 実績				達成率
		1Q	2Q	3Q	9カ月累計	
受注高	3,400	880	817	784	2,481	73.0%
売上高	3,280	662	871	752	2,286	69.7%
営業利益	110	▲6	45	8	48	43.6%
経常利益	80	▲11	29	▲1	18	22.8%
当期／四半期 純利益	▲25	▲24	▲11	▲13	▲48	—

## 2009年度、2010年度は、 「次なる飛躍に向けた構造改革の時期」

急激に変化する経営環境に対処し、2011年度以降の成長に向け利益体質への転換を図るため、2009年度、2010年度のアクションプランを策定(2009年2月発表)

【1】 固定費削減に向けたアクションプラン

【2】 事業ポートフォリオ見直しのアクションプラン

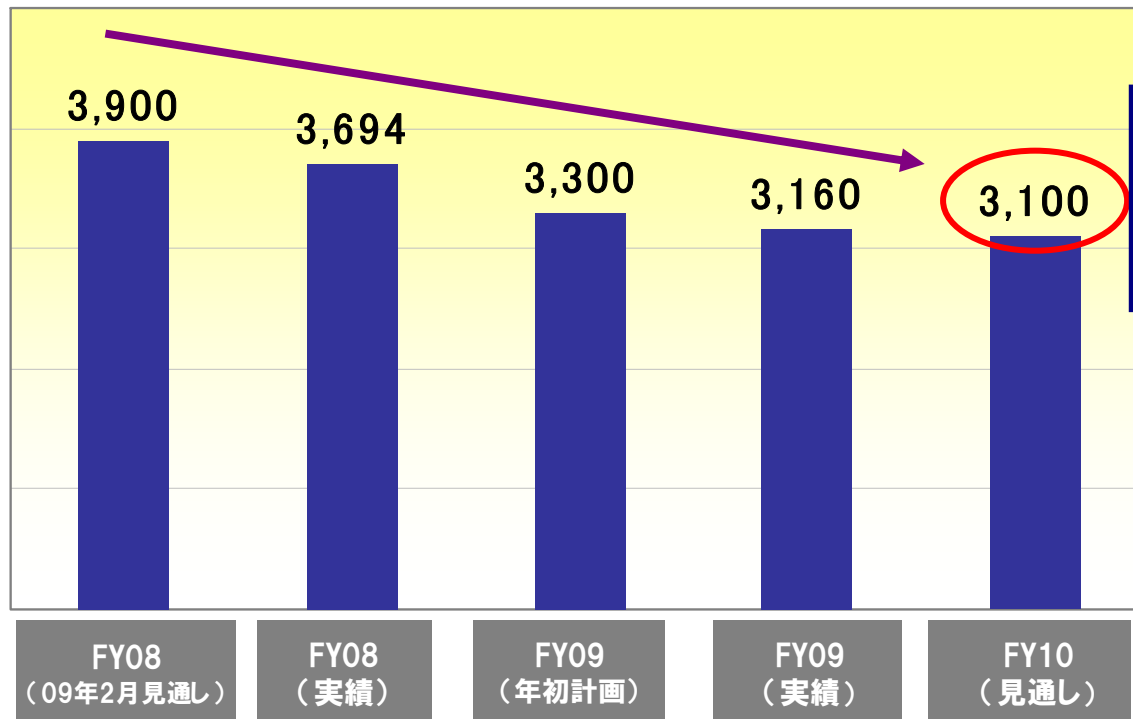
この2年間、着実に構造改革を進めてきたが、  
そのスピードは株主・投資家の皆様のご期待に沿うものではなかった



# 固定費削減に向けたアクションプラン

【2009年2月10日発表内容】  
2009年度に、固定費を2008年度比で340億円削減し、  
損益分岐点売上高3,500億円以下を実現

損益分岐点売上高推移（億円）



2010年度見通し

固定費を550億円削減し  
損益分岐点売上高は  
3,100億円レベルを達成



# 事業ポートフォリオ見直しのアクションプラン

制御事業の利益を、計測機器事業の赤字と新事業への投資が減らしている現状のポートフォリオを早急に改善

## ◆ポートフォリオ見直しにあたっての基本方針

- ・ 制御事業へのリソース集中
- ・ 基盤技術としての計測技術の維持・発展
- ・ 新事業の選択と早期立ち上げ
- ・ 不採算事業からの撤退

ほぼすべての不採算事業について、方向性を打ち出したが、一部のアクションについては未完了

**「横河テストソリューションズ株式会社」を設立（2011年4月1日）**  
**半導体テストビジネスを分社化**

◆**開発済みテストの販売**

◆**販売済みテストに対するソリューション提案活動**

を核にビジネス展開

- 同ビジネスに従事している約300人の内 技術者を中心に180人が出向
- 残り120人→ 技術者50人:他社へ出向（移籍含み）  
70人:社内での人員再配置

**販売及びソリューション提案活動による収入により  
ブレイクイーブン以上を目標**

- 長期的には当社単独での事業継続は難しいと判断
- 他社とのアライアンス等の実現に今後も注力

既に新たな開発を中止、開発済み製品に絞った活動に転換済み  
今後は積極的な販売を中止し、同ビジネスから撤退

◆納入済み製品等でサービスが必要なものに関り活動を継続

- 同ビジネスに従事している約140人を50人に縮小
- 削減する人員→ 社内での人員再配置

## 継続投資を基本方針とする

ただし、

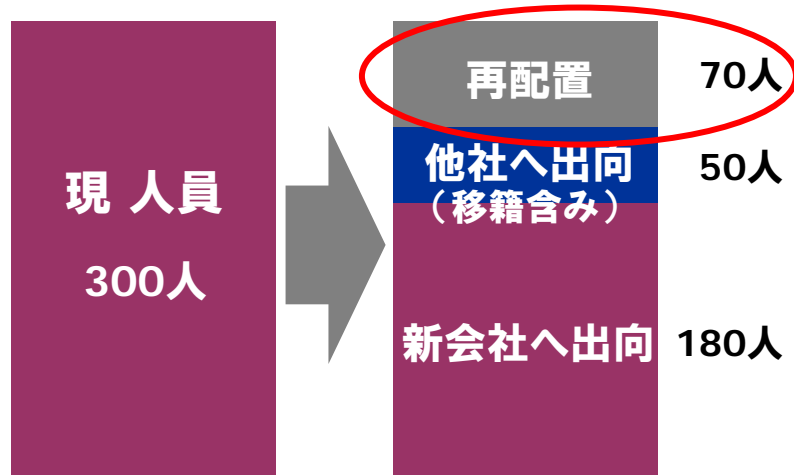
### ◆脳磁計ビジネスは、ビジネスとしての拡大は難しいと判断

ライフサイエンスビジネスの損益管理対象からはずし、

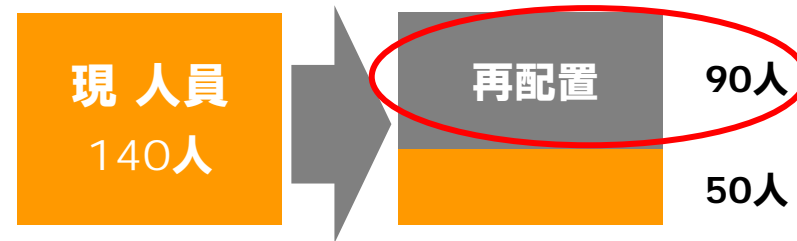
- ・ 販売済み顧客への技術支援を中心とした活動に限り継続
- ・ 脳科学発展への貢献 → 一定の研究開発活動は継続
- ・ 人員は現在の30人から半減

# 不採算ビジネスからの削減人員

## 半導体テストビジネス



## フォトニクスビジネス



## ライフサイエンスビジネス

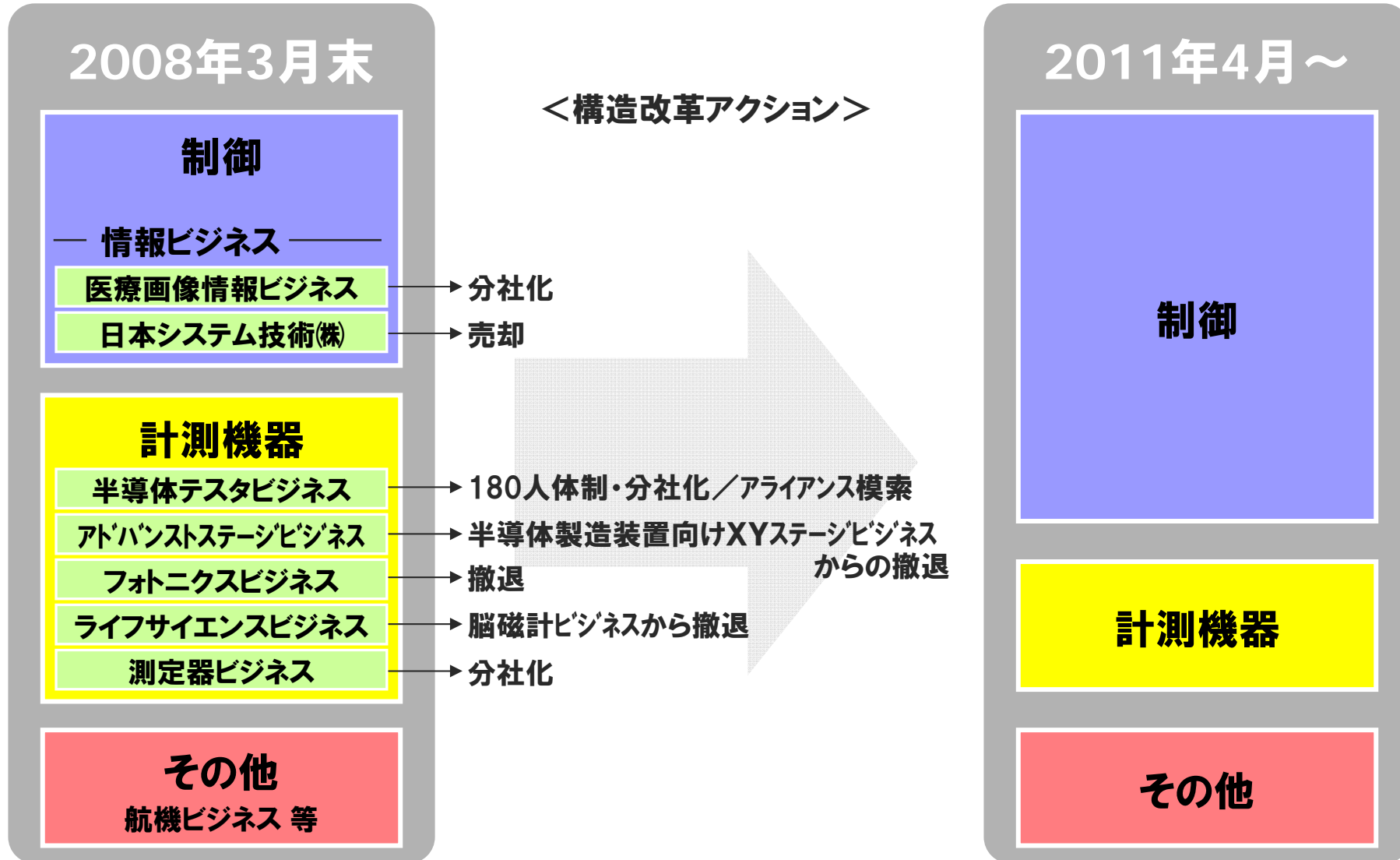
※脳磁計ビジネス



- 半導体テスト: 70人
  - フォトニクス: 90人
  - ライフサイエンス: 15人
- ※脳磁計ビジネス

計 175人 を社内で再配置

※制御事業の固定費増に繋がる  
人員の振替は行わない



構造改革に目処 → 次なる飛躍への準備が整った



新しい事業ポートフォリオを基本に収益を伸ばす

「純資産の回復」と「売上高営業利益率の改善」が主な課題



2011年5月の発表に向けて

中期計画を策定中



# 2010年度 業績見通しと配当予想

	年間配当金（円 銭）		
	第2四半期末	期末	合計
22年3月期	0.00	2.00	2.00
23年3月期	0.00		
23年3月期(予想)		0.00	0.00

## 平成23年3月期 期末配当

➡ 誠に遺憾ながら実施を見送り

### <見送りの理由>

- ① 当期の純損益の見通しが赤字であること
- ② 純資産の状況

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいております。従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。